

地区研究テーマ：持続可能な社会を構築するために、家庭・地域生活を主体的に創造する生徒の育成

科目名：家庭基礎

単元名：B 衣食住の生活の自立と設計

内容のまとめり：(3)住生活と住環境

### 1 単元の目標

- (1)ライフステージに応じた住生活の特徴、防災などの安全や環境に配慮した住居の機能について理解し、適切な住居の計画・管理に必要な技能を身に付ける。
- (2)住居の機能性や快適性、住居と地域社会との関わりについて考察し、防災などの安全や環境に配慮した住生活や住環境を工夫する。
- (3)持続可能な視点から住生活を見つめ、問題点を自分事として捉え、課題解決に向けて自分や家庭、社会にできることを具体的に考え、行動に移そうとすることができる。

### 2 単元の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<ul style="list-style-type: none"><li>・ライフステージに応じた住生活の特徴、防災などの安全や環境に配慮した住居の機能について理解しているとともに、適切な住居の計画・管理に必要な技能を身に付けている。</li><li>・持続可能な住生活や環境に関わる問題点について理解している。</li></ul>	<ul style="list-style-type: none"><li>・住居の機能性や快適性、住居と地域社会との関わりについて、持続可能な住生活や環境の視点から問題を見出して課題を設定し、解決策を構想し、実践を評価・改善し、考察したことを根拠に基づいて論理的に表現するなどして課題を解決する力を身に付けている。</li></ul>	<ul style="list-style-type: none"><li>・様々な人々と協働し、よりよい社会の構築に向けて、持続可能な住生活と住環境の視点から、課題の解決に主体的に取り組んだり、振り返って改善したりして、地域社会に参画しようとするとともに、自分や家庭、地域の生活の充実向上を図るために実践しようとしている。</li></ul>

### 3 指導と評価の計画（9時間）

- ・「住まい」とは 1時間
- ・安全な住まい 4時間
- ・快適な住まい 2時間
- ・住まいの課題と未来の暮らし 2時間

時間	【ねらい】・学習活動	重点	記録	備考（・は評価規準（ ）は評価方法）
<p>【単元を貫く課題】持続可能な視点から安全や環境に配慮した住生活の課題に目を向け、その課題の解決策を地域・社会との関わりを踏まえて考えよう。</p>				
<p>1 「住まい」とは 【ねらい】住まいの空間や役割について理解する。</p>				
1	<ul style="list-style-type: none"> <li>住まいの4つの生活空間、3つの役割について理解し、自分の家を例に住まいの空間や生活行為、役割を考える。</li> </ul>	知 ①	○ ★	<ul style="list-style-type: none"> <li>住宅の役割について科学的に理解し、安全な生活を送るための知識を身に付けている。（ワークシート・定期考査）</li> </ul>
<p>2 安全な住まい 【ねらい】日本が災害大国であることを自覚し、地震や大雨など災害に対する備えについて考え、いざという時に対応できる行動力を身に付ける。</p>				
2 ・ 3 ・ 4 ・ 5 本 時	<ul style="list-style-type: none"> <li>家庭内事故や火災、犯罪を防ぐために生活の中でできる備えについて考える。</li> <li>DVD「災害から命と暮らしを守る」の視聴を通して様々な自然災害とその備えについて知る。</li> <li>自分の住む地域で起こりうる自然災害の特徴と生活における対策の仕方を調べる。</li> <li>持続可能な住生活を送るために在校時の防災・減災について考えることを通して、いつどこで起こるか分からない災害に対する備えの重要性を意識して行動できるようにする。</li> </ul>	思 ①  知 ②  思 ②  思 ③ 態 ①	○ ★  ○ ★  ○  ○	<ul style="list-style-type: none"> <li>防犯、耐火、耐震などに配慮して安全に住むことができる住居について考えることができる。（ワークシート・定期考査）</li> <li>災害に対する正しい知識と対処法を身に付けている。（ワークシート・定期考査）</li> <li>住んでいる地域のハザードマップを確認してマイ・タイムラインを作成し、防災への備えについてまとめたり、発表したりすることができる。（ワークシート）</li> <li>いつか起こり得る自然災害を自分事として捉え、自助・共助・公助の意味を正しく理解することを通して、いざという時に災害から自分の命と暮らしを守るとともに地域に貢献しようとしている。（ワークシート・行動観察）</li> </ul>
<p>3 快適な住まい 【ねらい】平面図を読み取る知識を身に付けるとともに、快適な住み方について考える。</p>				
6 ・ 7	<ul style="list-style-type: none"> <li>一人暮らしに向けて、住宅広告の見方を学ぶ。</li> <li>ライフステージによって変わる住要求について考え、平面図を読み取ったり作成したりする。</li> </ul>	知 ③  思 ④ 態 ②	○  ○	<ul style="list-style-type: none"> <li>初めての一人暮らしのポイントを確認し何に重きを置いて物件を選ぶかについて討論させる。（ワークシート・行動観察）</li> <li>自分の考える生活設計に沿って、住みたい住居の平面図を作成させる。</li> <li>ライフステージの特徴や課題、災害リスクなどに合わせて、住生活の計画を立てようとしている。（ワークシート）</li> </ul>

<p>4 住まいの課題と未来の暮らし 【ねらい】快適な住み方や持続可能な住まい方について考え、未来の暮らし方を想像する。</p>				
8	<ul style="list-style-type: none"> <li>人口減少によって起こる住まいの問題や、住まいの寿命について日本と世界を比較する。</li> </ul>	知 ④	○	<ul style="list-style-type: none"> <li>人口減少が住まいに与える影響について、日本は人口が衰退している事実を改めて意識するとともに健康寿命が長い人生をどう豊かに過ごすことができるかについて住環境の面から考える。</li> </ul>
9	<ul style="list-style-type: none"> <li>環境に配慮した持続可能な住まい方や様々な暮らし方について調べたり、未来の暮らし方について想像したりする。</li> </ul>	思 ⑤ 態 ③	☆	<ul style="list-style-type: none"> <li>住居の持続可能性について自分事として考えようとしている。</li> <li>近年話題になっているテレワークやワーケーションなど他拠点での住まい方、住居のバリアフリーやユニバーサルデザイン、気候や風土に応じた住居の特徴や変遷、自然環境や社会環境と調和した住居のあり方について調べたり発表したりできる。（レポート・行動観察）</li> </ul>
家庭クラブ	<ul style="list-style-type: none"> <li>文化祭で一般社団法人中部地域づくり協会より外部講師を招聘し、全校生徒や学校職員、保護者を対象に「防災出前講座」を実施（VRによる浸水疑似体験、伊勢湾台風A1語り部体験、液状化現象実験、防災グッズの展示、防災リーフレットの配布等）。</li> <li>家庭クラブ代議員の代表者を対象に、自治会長による地域における過去の災害に関する講話を実施。</li> <li>防災食の試作・試食会の実施。</li> </ul>	知 ⑤ 態 ④		<ul style="list-style-type: none"> <li>防災に関心を持ち地域の過去の災害について知るとともに、最新の技術を用いた浸水疑似体験を通して事前の備えや早期避難の重要性、過去の水害の教訓や住んでいる地域の特性など、災害（水害）に備えることの大切さを学ぶ。</li> <li>簡単にできる防災食を試作・試食することを通して、いざという時の備えについて考える。</li> </ul>

**【参考文献】**

- 資料集「生活ハンドブック」（発行：第一学習社）
- 「大垣防災 大垣市防災ハンドブック」（発行：大垣市危機管理室）
- 「大垣防災 大垣市洪水ハザードマップ」（発行：大垣市危機管理室）
- DVD「災害から命と暮らしを守る」（発行：NHKエンタープライズ、販売元：教育図書株式会社）

#### 4 学習活動と評価方法（学習指導案）

科目名	家庭基礎		指導クラス	1年5組
単元名	B 衣食住の生活の自立と設計 (3)住生活と住環境		使用教科書	家庭基礎 つながる暮らし共に創る未来 教育図書
本時の主題	持続可能な住生活を実現するための防災について考える（5時間目／9時間）			
指導観	日本は、地震、火山、台風などが多く、これらに伴う洪水や土砂災害、津波の被害に遭いやすい災害大国である。同じ災害でも住んでいる地域によって被害の内容や程度は異なり、本校が立地している大垣市は多くの河川が網目状に流れる水郷地帯であり、豊かな水の恩恵を受ける一方で水害との闘いを繰り返してきた地域である。そこで、学校のある地域のハザードマップを確認するとともに、災害に対する備えについて見直し、学校や家庭で災害が起こった時の対策を考えておくことの重要性について意識させたい。また、1年生全体に減災カテストを実施したところ、「地震から命を守る」の項目は74%と比較的高いが、「風水害・土砂から命を守る情報収集や判断」の項目は58%と低く、「災害から命を守る近所づきあい」の項目はさらに38%と低いことが分かった。そこで、災害の中でも水害の状況を想定した対策について考えさせるとともに地域との関わりについて考えさせたい。			
本時の目標	・在校中に大きな自然災害(水害)に遭った場合どうするか考えることを通して、いつどこで起こるか分からない災害に対する備えの重要性を意識して行動できるようにする。			
過程	指導内容	生徒の学習活動	評価規準と評価方法	指導上の留意点
導入 5分	本時の目標の確認	前時の学習を振り返り、本時の目標を確認する。		前時の学習と本時の目標を確認させる。
展開 5分 30分 5分	グループ交流	<p>学校における自然災害（水害）の危険について確認する。 （大垣市危機管理室発行「大垣市防災ハンドブック」を参照する）</p> <p>在校中に突発的な豪雨が発生し、床上浸水した場合を想定し、グループで意見交流する。 （電気・水・ガスが止まった場合）</p> <p>①避難方法は？（どこに避難するか？） ②生活する上での問題点は？（必要な物資には何があるか？） ③②の問題点を解決するにはどうするか？</p> <p>①～③について順に取り組み、それぞれのグループ交流後にグループの代表者が全体で発表する。 ※MetaMoJiに貼り付けた用紙の写真をホワイトボードに映しながら発表する。 学校の備蓄品には何があるかを確認し、自分で準備するとよいものは何があるかを考えるとともに、災害時には自助・共助・公助が大切なことを再認識する。</p>	<p>【思考・判断・表現③】 【主体的に取り組む態度①】</p> <p>・いつか起こり得る自然災害を自分事として捉え、自助・共助・公助の意味を正しく理解することを通じて、いざという時に災害から自分の命と暮らしを守るとともに、地域に貢献しようとしている。</p> <p>&lt;評価方法&gt; ・行動観察 ・ワークシート ・グループでの学習用紙</p> <p>&lt;Aの例&gt; ・災害に対する備えを自分事と捉え、問題点や解決策を考えている。</p>	<p>1人に1冊ずつ「大垣市防災ハンドブック」、グループに1枚ずつ「大垣市洪水ハザードマップ」を配付しておく。</p> <p>個人で考えを付箋に記入した後、グループごとにA3用紙に貼りながら意見交流させる。まとめ方が分からないグループに対して、机間指導を行う。</p> <p>MetaMoJiのワークシートにグループでまとめた用紙を撮影して貼りつける。</p>
まとめ 5分	本時のまとめ	ワークシートに、本時の自己評価と感想を記入する。		本時の感想を記入させる。

## ■工夫している点

- ・事前に減災力テストを実施することで、自分や家族の防災に対する備えがどの程度かについて把握できるようにした。
- ・前時にマイ・タイムラインを作成し家庭防災について考えさせた後に、本時で学校防災について考えさせることで、いつどこで自然災害に遭遇するか分からないことを認識し、自助・共助・公助の大切さを再確認できるようにした。
- ・MetaMoJi のグループ設定機能を使って、グループ内でまとめた用紙を代表者が撮影し共有できるようにした。

## 5 成果と課題

[%]

	評価項目	A	B	C
①	いつかどこかで起こり得る災害を自分事として捉えることができたか？	91	9	0
②	いざという時に災害から自分の命と生活を守るための問題点と解決策を考えることができたか？	82	18	0
③	防災における自助・共助・公助の意味を正しく理解できたか？	85	15	0
④	災害時に地域に対して何ができるかを考え行動しようと思うことができたか？	88	12	0

### ★参観していただいた先生からの意見を踏まえて

- ・グループで使用したワークシートを写真で撮ってMetaMoJi に貼り、スクリーンに映しクラス全体に共有するというやり方がとてもスムーズでよい、ハイブリッドな方法で参考にしたいとのご意見をいただいた。MetaMoJi でグループ設定機能を使用すれば、タブレット上で付箋を使ってグループ交流できるが、実際の紙面上に付箋を貼った方が対面で話し合いが活発化すると思いついて紙の付箋を使用した。別のクラスでMetaMoJi の付箋機能を使用してグループ交流を行ったが、画面に集中してしまい紙の付箋を使用した時よりも静かな交流風景になった。どちらも授業でやってみて、紙の付箋をグループの数だけ準備するのは手間がかかり大変だが、生徒の取り組む様子をみると紙の方がより積極的に話し合いに参加できていたように見受けられたため、本時でのやり方が効果的だったと考える。
- ・大垣市危機管理室が発行している「大垣防災ハンドブック」という資料を1人に1冊ずつ、「大垣防災洪水ハザードマップ」をグループに1冊ずつ用意できていて学習活動がスムーズに行っていた、自分の学校でもぜひ活用したいとのご意見をいただいた。最初に計画規模L1（50～100年に1回程度発生する大雨を前提に作成された）洪水ハザードマップで実際に学校の位置を確認し、学校で水害に被災した場合の被害状況や避難方法をクラスで共有したことは、いつどこでだれと一緒に遭遇するか分からない災害を自分事として捉えることができるきっかけになったと考えられる。
- ・地区の夏季研修会では清流の国ぎふ防災・減災センターの兒玉靖氏より「学校にいる時に災害が起こったら 学校が避難所になったら」についてご講演いただき、先生方とグループワークを行った。交流時の手法を活かして今回の研究授業に繋げることができていたとご意見をいただいた。地区研修では地震を想定したが、防災講座を文化祭や学年統一LHRで中部地域づくり協会地域づくり技術研究所より講師を招いて風水害に関する内容で実施したことも生かすため、今回は水害を想定して授業内容を考えた。
- ・自助・共助・公助についての発問時に生徒がスムーズに答えていたとご意見をいただいたが、以前の授業で防災に関するVTRや家庭防災で何回かふられていたため、知識として身に付いていたと考えられる。
- ・災害時に地域に対して何ができるかを、実際に近隣のデイサービスセンターで交流した家庭クラブ員の生徒に質問したところ、肩を貸してあげて一緒に避難すると回答した点について、交流の成果があってよいとご意見をいただいた。12月の交流では、避難する際の介助を練習する等合同の避難訓練を実施した。

## ★授業後の生徒の感想（家庭防災と学校防災合わせて）

学校で用意されている備蓄品は、全校生徒を補える量だとは思えないので、ある程度の想定と準備を個人個人で必要があると思った。また災害に対する日頃の対策について家族と話し合うことが重要だと思った。高校生になった今、自分ができることは多いと思うので、ボランティアや地域に対してできることを自主的に考え、行動に移したい。

災害はいつどこで起こるかかわからないので、日常的に防災を意識し、関連する情報を日ごろから学んでいこうと思う。災害はいつ起きてもおかしくないものなので、日頃から避難する時に持っていくものを防災用バッグに入れておいたり、自分のベッドの横にヘルメットを置いたりして、災害への備えをしておきたい。また、自分の家の近くに高齢者がいる家があるので、その人たちとも避難できるように、避難の連絡をするなど、実際に災害が起きた時に何をすればいいのか、何ができるかを考えながらこれから生活していきたいと思った。

防災はいざと言う時に備えることが大事。例えば、防災バッグや学校で避難だったらこういうことが起きるからこうした方がいいとかの対策が必要。また地域との関わりも大事で避難の時に助け合ったりできるので大切だと思った。

いつ災害は起きるかかわからないのでいつ起ってもいいように日頃の対策が大切だし、このことを友達や家族と話し合うことが重要だと思った。もし災害がおこったらまず情報を集めることが大切、そして最後に自助で自分に余裕が出来たら公助ということ大切にしたい。

防災について学んであらゆる場合を想定しながら対策について学ぶことができた。

非常食や保存水など様々な防災グッズがあることを知ったし、授業で自分の地域の避難経路や避難場所を確認したことで改めて防災に対する意識を強く持つことができたし、この話題を家に持ち帰って、家族の中でもしっかりと話し合って、家族全員が素早く行動をとれるように自ら行動を起こせるようにしたいと思う。

この授業を通して、家からの避難経路や家や学校付近の危険な場所を理解することができた。また、普段から携帯できそうな非常用品などを家庭で確認して家族全体で備えられるようにしていきたいと思った。

地震に備えた構造の造りには耐震構造があることは知っていたけれど、そのほかにも災害に強い建築物の造り方があることが分かった。今の家の構造の基準となったのは最近のことだったと知って驚いた。

今日の授業を通して学校だけでも災害という非常事態にはたくさん問題点があると分かった。それに応じた解決策もたくさん考えられたのでこの経験を生かせるようにしたいです。学校以外でもいつ災害が起きるかかわらないからどこでもその場に応じた対応ができるように常日頃から避難の仕方や行動の仕方を考えられるようにしたいです。

自分で準備するものは特に乾電池を準備した方がいいなと思った。乾電池が家にどれくらいあるか把握できていないので家に帰ったら確認をしたいし、乾電池が使えるモバ電など乾電池で使える製品を準備できるようにしたいです。

今回の授業を通して、災害はいつどこで起きるか分からないため自分事として考えたい。また、もし災害が起きた時パニックにならない為に事前の準備をしておきたいと思った。

災害は自分にも起こりうる事だから、自分事として考えることが大切だと思った。

予測ができないので、いつ災害が起きてもいいように事前に準備をしておきたいと思った。

家族と災害が起きたときの集合場所などを決めておきたいと思った。

災害はとても恐ろしいものなので、前々からそれに向けて準備して、実践していきたいです。そのためにまず家に帰って災害への準備をして、いざ災害が起きた時にスムーズとはいかなくてもできるだけ素早く行動できるよう、大事なものを詰め込みたいです。自分から行動することも大切なので地域の人と話し合い、災害が起きた時の避難場所を決めて地域全体で取り組みたいです。災害が起きた時に自分はもちろん、周りの人と助け合って行動したいです。

今回の授業を通して、災害が起ってから防災では限界があることが分かった。事前の準備や備えが大切であり、それらが必要だと思った。今回、自分の家の周りや学校での災害の危険性などを初めて知り、なにが足りていないかということが少し分かった。私の家には防災バッグがあるがその中にはなにが入っているのか、また、それらはどのように使うのか知らない。家で確認し、調べてしっかりと学んでおきたい。